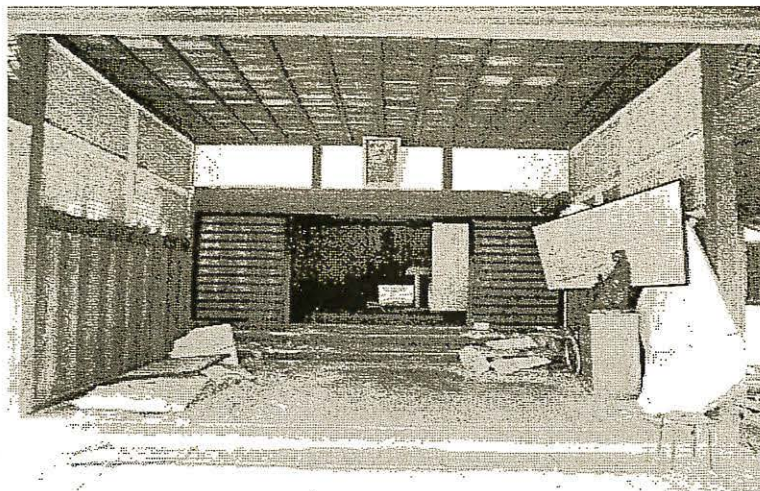


歴史にみる大震災と弘道館



震災直後の弘道館正庁玄関

日本には、はるか古代の昔からの地震の記録がのこっています。
突然に天地を揺るがす地震は人々にとって大きな脅威だったこと
でしょう。

弘道館が開設された天保12年(1841)以降にも、安政2年(1855)
に起きた安政の江戸大地震、近代に入って大正12年(1923)の関東
大震災と、震度6以上と推定される地震が江戸・東京を襲いました。

時代を隔てた2つの大震災と弘道館はどんな関わりをもってい
たのでしょうか。弘道館にのこされた歴史資料を紐解きながら当時
の状況をみていきましょう。

そして、今回の東日本大震災による弘道館の被災と復旧への道
のりもまた後世へと受け継がれていくことを願っております。

弘道館事務所

水戸市三の丸1-6-29 〒310-0011

TEL029-231-4725 FAX029-227-7584

<http://www.koen.pref.ibaraki.jp/park/kodokan01.html>

安政の江戸大地震ー両田の死

安政2年(1855)10月2日に起こった安政の江戸大地震は、江戸はもとより水戸藩にも大きな影響を与えました。江戸小石川(現・文京区)にあった水戸藩邸は、ほとんどの建物が倒壊あるいは損傷を受け、藩邸内の死者はおよそ60人、怪我人はさらに多かったですと推測されています。

安政2年の弘道館「学校日記」(茨城県立歴史館所蔵)にも、10月16日の項に「去ル二日夜、江戸府大地震ニ而、御殿向を始、御長屋向大破潰家臥家等数多、怪我人死人も有之」と記されています。日記には10月4日から15日までの記事がなく、藩内の混乱がうかがえます。

水戸藩、特に藩主徳川斉昭にとって大きな痛手となったのは、藤田東湖と戸田忠敬が大地震の犠牲となったことでした。東湖と忠敬は、ともに苗字に「田」の文字があることから「両田」と称され、腹心(心から信頼できる者)の家臣として藩政改革に取り組む藩主斉昭を支えた人物です。

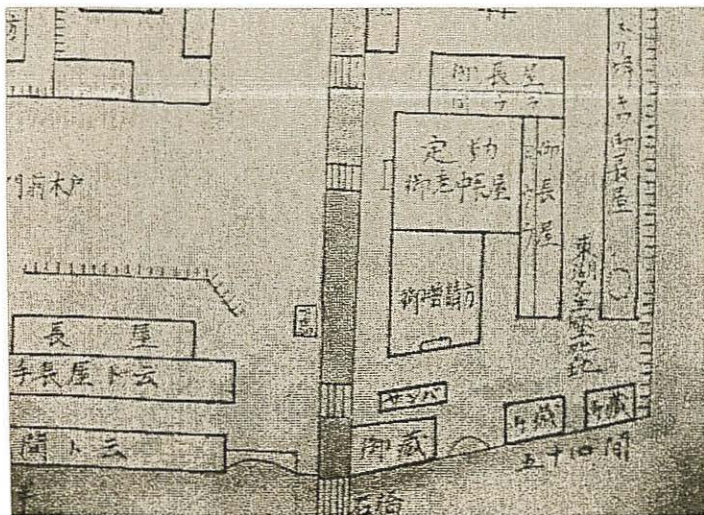
藤田東湖(1806-55)は、水戸学の代表的な学者・思想家で、斉昭の命により弘道館の建学趣旨を宣言する「弘道館記」を起草すると共に、その解説書である『弘道館記述義』をはじめ多くの著作をのこし、弘道館の創設や水戸学の発展に寄与しました。



藤田東湖



戸田忠敬



江戸小石川御邸之図(部分)

左の図には、右側中央に赤い丸印に「東湖先生圧死の地」と記されています。水戸藩邸の長屋に住んでいた東湖は、大きな揺れに驚き、家族揃って庭に避難しましたが、大切な品を取りに帰った母を助けるため自らの命を落としました。

享年50歳。現在、小石川後樂園内には、「藤田東湖先生護母致命之处」と刻まれた石碑が建立されています。

同じ藩邸に住んでいた戸田忠敬(1804-55)も享年52歳の惜しまれる死でした。

安政の江戸大地震

安政2年(1855)10月2日午後10時頃(夜四ツ時)発生

震源地と規模：江戸(直下型) マグニチュード6.9(近年の研究では7.2)

江戸の被災状況：死者7千から1万人

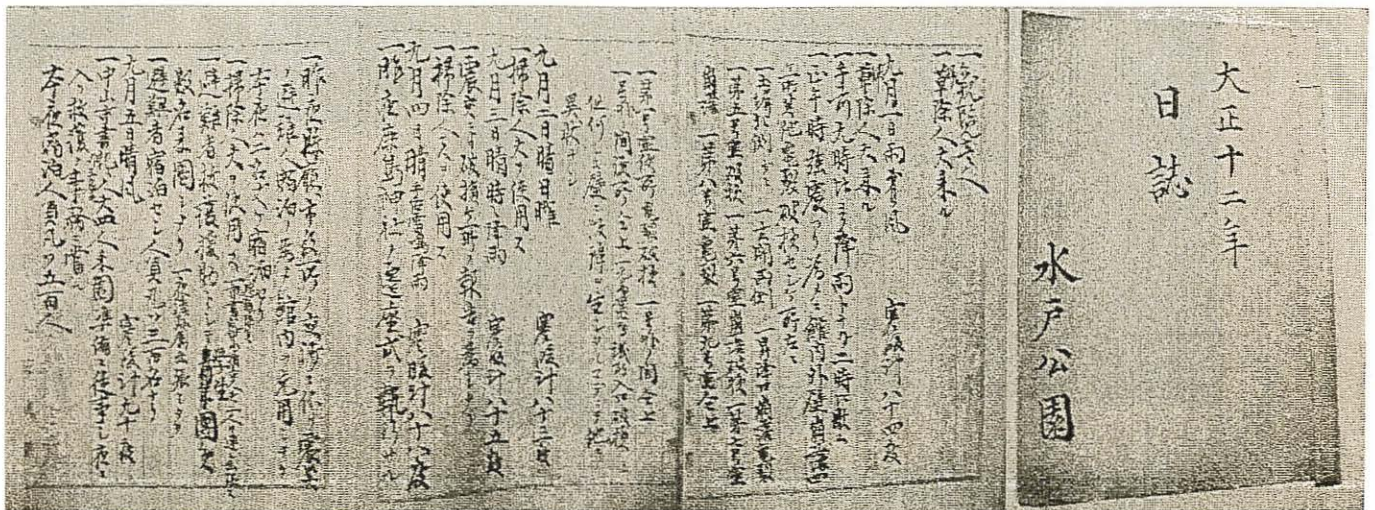
倒壊家屋約1万5000軒・倒壊土蔵約1400棟ほか

※当時の日記などの記録から水戸でも震度5程度の揺れがあったと推定されています。

関東大震災－避難所となった弘道館

大正12年(1923)9月1日、関東大震災が起り、東京を中心にこれまでにない規模の大きな被害が発生しました。

水戸市でも家屋全壊5棟、半壊19棟のほか、水道の配水管に漏水箇所が生じるなどの被害がありました。被害は小規模なもので、水戸市の活動は救援活動に向けられました。救援活動は、避難者への医療や食料・宿泊所の提供、被災地への救護団や応援団の派遣、金品の寄贈、疎開者の就職の応援などでした。市役所や弘道館などには無料宿泊所が設けられ、避難者の救援が行われました。救護された延べ人数は、9月3日から19日までの間で休憩者1万9515人、宿泊者5686人、支給された弁当の数は2万6679食となっています(『水戸市史 下巻(二)』)。



大正12年の水戸公園〔弘道館〕日誌(表紙と9月1日関東大震災発生からの記事)

上の資料は、大正12年の水戸公園(弘道館)の日誌です。9月1日「正午時強震アリ、為メニ館内外壁崩落四ヶ所、其他亀裂破損」「但、何レモ壁ニ故障ヲ生シタルマデニ他ニ異常ナシ」と関東大震災による弘道館の被災状況が記されています。さらに9月4日から「避難人宿泊ノ為メ館内ヲ充用」し、宿泊した避難者数は4日約300人、5日約500人、6日約400人、7日約800人、8日約300人、9日約300人にもものぼったことが明記されています。10日からは避難者の収容はなくなり、後片付けや被災箇所の補修などが行われました。弘道館は、被災した人々の救援の場所でもあったのです。

関東大震災

大正12年(1923)9月1日午前11時58分発生

震源地と規模：神奈川県相模湾北部 マグニチュード7.9

被災状況：死者・行方不明者14万2807人

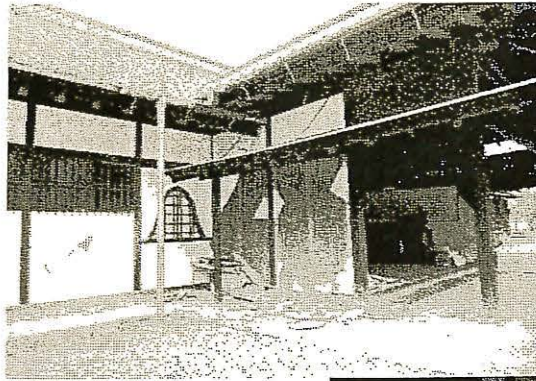
全壊・焼失家屋57万5394戸

※震災のあった9月1日は「防災の日」と定められ、防災訓練が行われるようになりました。

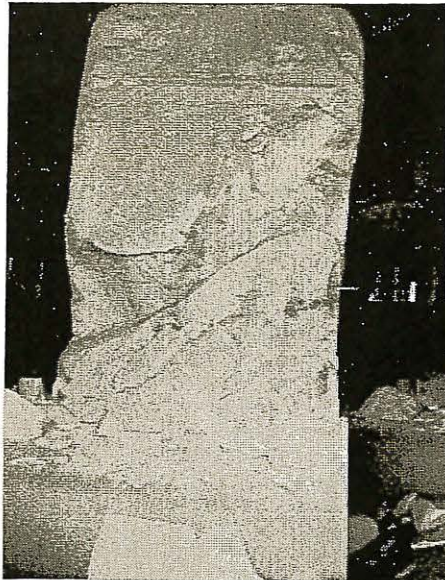
東日本大震災－弘道館の被災

《弘道館内》

震災直後に撮影された弘道館の被災状況です。外壁と内壁の漆喰は亀裂が生じたり、崩れ落ちたりしています。また何枚もの和紙を重ねて造られている内壁も破損してしまいました。

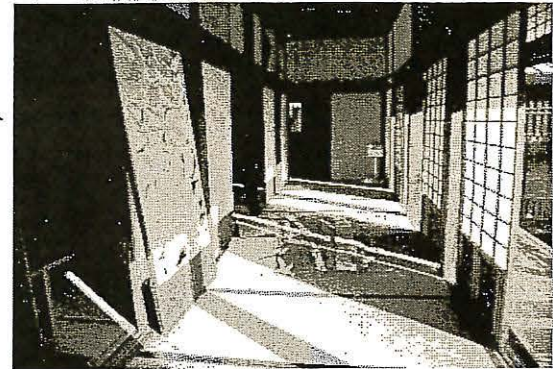


正庁玄関



至善堂廊下

弘道館記碑と
崩れ落ちた石碑の一部



《弘道館公園内》

弘道館の建学精神の象徴である弘道館記碑をはじめ、種梅記碑、学生警鐘、孔子廟など主要な建造物の多くが被災しました。

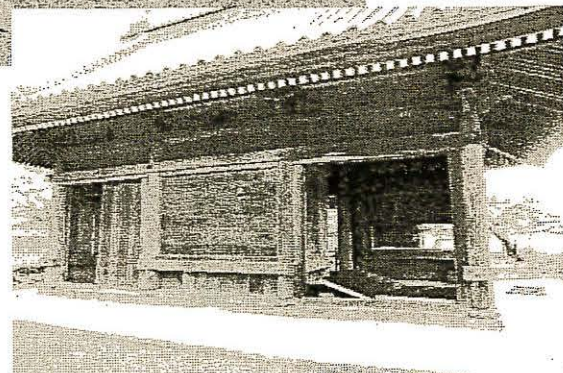


種梅記碑



孔子廟

学生警鐘
(鐘楼)



東日本大震災

平成 23 年 (2011) 3 月 11 日午後 2 時 46 分発生
震源地：三陸沖 (牡鹿半島の東南東約 130 キロ付近)
規模：マグニチュード 9.0
水戸市：震度 6 弱

《参考文献》

水戸市史編纂委員会『水戸市史 中巻 (四)』(1982 年)・『水戸市史 下巻 (二)』(1995 年)
水戸市教育委員会『水戸の先人たち』(2010 年)
水戸市立博物館『安政江戸地震と水戸藩 特別展』(2006 年)
但野正弘「日本史上に鑑みる大震災－特に東北地方と常陸国を中心として－」『水戸史学 第 74 号』(2011 年)